

悉記

京都大学
附属図書館
大田
74

大川家
74



大川
生



有三月者、蓋四五月、乃知張氏
如僕子流了、故云云云云

○ 行政警察

第一条 警察掛、指揮ヲ受テ
人民ノ權利ヲ保護シ及ヒ其健
康ヲ看護シ衣蕩淫逸ヲ制
シ風俗ヲ正スル職トスル者ナリ克
ク其意ヲ体シ決シテ威權ヲ
以テ御壓スヘカラス

第二条 平常非常ニ粗暴ノ取計
ヒナク丁寧ニ處置ヲ心掛クヘシ

第三条 貴賤ミカハラス失敬舉
動アルヘカラス

第四条 機密ノ事ハ勿論凡ノ職

務ニ係リタル事ハ總テ警察掛
ヘ申報シ決テ他言ス可ラス

第五条 訴訟ノ事件ハ一切
關係スヘカラス若シ強テ依頼
スルモノアラハ其旨申報スヘシ

第六条 何様ノ事アリモ私ニ區
内ノ者ヨリ金銀ハ勿論凡ノ品物
受納スルコト堅ク禁止セリ

第七条 事ニ花シテ酒店料理
屋ニ立入り飲食スヘカラス尤事
アリテモ得サル時ハ便宜喫食
シ現金ニテ其代料ヲ拂ハ勿論

長へ申述スヘシ

第八条 無産體ノ者集合ノ
事アルハ平日ニ注意シ其

動靜ヲ察スヘシ

第九条 官省ノ公布并縣廳鎮
令ニ等ラリ解セズ或ハ誤認ス
ル者アルハ懇切ニ説明スヘシ

第十条 義事善行アルモノ
見聞次第手帳ニ書記シ
申述スヘシ

第十一条 老幼廢疾婦人外
國人等ハ就中注意シテ保

護スヘシ

第十二条 棄見迷見行斃^{ハイ}絶死
溺死等ハ殊ニ救護ヲナシ其
所ノ戸長或ハ用掛ニ報告スヘシ

第十三条 区内ノ居民并道路ノ
行人困難アリテ救護ヲ乞フ
中ハ何時ニテモ相応ニ或ハ救護
ヲ乞ハサルモ見聞次第力ヲ尽
シテ防護スヘシ

第十四条 行人ニ道路或其他
ノ事ヲ尋問セラル、時ニ寧
ニ教達スヘシ

第十五条 各家屋夜間戸締油
断ノ者アレハ速ニシテ主人ニ知スヘシ

第十六条 路上狂大アレハシテ打
殺シ取棄ツヘシ

第十七条 往來筋ニ行人ノ妨害
トナルヘキ物ヲ見ルハ速ニ之ヲ取
除カシムヘシ道路ノ荒蕪溝渠
ノ淤塞及ヒ不潔物アレハ之ヲ
戸長用掛ニ告ケ掃除セシムヘシ

第十八条 出火ノ序ハ合圖ヲ
為一般ニ知ラシメ焼火ニ罹
ル家ハ其家人ヲ助ケニ消防

ノ事モ勤ムヘシ消防人己ニ聚
ルニ至レハ務メテ乱雜及窃盜
防ク事ニ注意スヘシ

○ 司法警察

第十九条 警察掛ノ指揮ニ循
ヒ各地ニ派出シ罪犯ヲ探索逮
捕スヘシ

第二十条 事務一切施行ノ件々
遺漏ナク帳簿ニ記置便宜
係官員ノ檢閲ニ供スヘシ

第二十一条 町管ノ部分地理及ヒ

風俗ヲモシ兼テ詳知スヘシ

第廿二条 盜賊乱暴人等ヲ捕縛ノ時兇器ヲ持シ拒捕スト
モテ折傷ヲナスス捕得スル
ヲ要ス但テ得サル時ハ臨機處分スルコトアルヘシ

第廿三条 聞込ノ事件ハ其情ヲ探知シ證ヲ得テ之ヲ警察係ニ報告スヘシ尤重大事件ハ證ヲ得ストモ速ニ報知スヘシ

第廿四条 捕縛シタル犯人ハ其日時地一町證據情状ヲ具

書シテ犯人ト共ニ速ニ其部今一町管ノ出張一町ヘ送致シ警察係ノ指揮ヲ受クヘシ

第廿五条 犯人ヲ捕縛シタル時ハ其長副ニ長立會シ犯人駐物及ヒ其他ノ物品ヲ取調ヘシ
ヲ詳細ニ記シ駐物ト共ニ其町管ノ出張一町ヘ送致スヘシ

第廿六条 区内ハ勿論他ノ部内ニ於テモ探索或ハ追捕ノ一アラハ互ニ合圖アルカ又ハ臨時呼出ヲ受レハ早速其場ニ馳付

能力スヘキ事平常其心掛アルヲ要ス

但シ非常ノ合圖ハ呼子ノ留等ノ類ヲ以テ便宜可定置事
第廿七条 探索逮捕ノ為ニ出張スル時ハ総テ費用ヲ詳記シ
證書ヲ取置キ其精算ヲ立ツルヲ要ス

第廿八条 前条ニ記スルハ同
法警察規則ヲ照スヘシ

附録

一 精勤ノ者ハ七月至月兩度ニ
賞金ヲ与ヘ非常ノ節功勞ヲ致
スモノハ臨時賞金ヲ与フヘシ
一 三年以上勤仕ノ後役ヲ退ク
モノハ賞金ヲ給スヘシ

一 勤方怠慢及ヒ不行跡ノ事ニア
レハ直ニ其勤ヲ退カシム三年勤仕
ノ後トイヘ共賞金ヲ給セス
一 病氣及ヒ私ノ願ヲ以テ不勤者
以上ニ及フ時ハ日割ヲ以テ給料
ヲ差引キ五十日以上ニ及ヘハ退勤
セシム尤一日ナリハ虚妄ヲ以テ欠

勤不怠、即日ニ之ヲ免ス

○ 第十四号

使府縣

檢事職制章司法警察規則
別冊、通相定候条、以旨為心得
相達候事

二月九日

第一章 檢事職制

第一条

大檢事 權大檢事
中檢事 權中檢事

少檢事 權少檢事

第一 檢事ノ職ハ犯罪事

端已ニ發スル者ヲ檢探シ其

ノ未タ發セサル者ヲ敬告察豫

防スルノ事ニ干預セス

第二 犯人ノ探索逮捕ヲ管

督指令

第三 司法警察官吏ヲ統攝ス

第二章 檢事章程

檢事ハ犯人ヲ檢探シ其

扶テ惡ヲ除クノ職トス其

章程左ノ如シ

第二条 重大ノ事件及ニ規則外
ノ事ハ本省ニ具申シ決テ取テ處分
ス規則上定リタル事件ハ當務
ノ檢事便宜處分スルヲ得
ヘシ

第三条 犯罪ノ跡アリテ蹤跡
明白ナル者及現行犯罪ハ檢
事ヨリ司法警察官吏ニ命
シ逮捕シテ狀ヲ具シ判事官ニ
第四条 犯罪ノ跡アリテ其蹤
跡未タ明白ナラサル者ハ司法警
察吏ニ命シ探索セシム

第五条 已ニ犯罪ヲ具狀シテ判事
官ニ付ス鞠獄已ニ畢テ檢事其
口書ヲ審閱シ意見ヲキモム
之ニ檢印シ亦テ判事官ニ付ス若
シ異見アルハ亦之ヲ判事官ニ
述フ

第六条 處刑ノ言渡シニ連環ス
第七条 檢事ハ原告人ト爲テ
刑ヲ求ムルノ權アリテ裁判ヲ爲
スノ權ナシ判事官ニ向テ斷刑ノ
當否ヲ論スルヲ得ス

第八条 若シ裁判官犯罪及

故失出入ノ事アレハ之ヲ卿ニ報ス

第九條 裁判所ノ監査官ハ檢事

ノ所管ニ屬ス

第三章 司法警察事務

第十條 司法警察官ハ行政警察

豫防ノ力及ハスレテ法律ニ背ク

者アル時其犯人ヲ探索シテ之ヲ

逮捕スルモノトス

第十一條 司法警察官ノ職務ト

行政警察官ノ職務トハ互ニ相牽

連スルヲ以テ一人ニテ其二箇ノ職

務ヲ行フ者アリト雖モ其本務

ニ於テハ判然ニ區域アリトス

第十二條 司法警察官ハ現行犯罪

ト現行ニ非サル犯罪トノ區別ヲ立

ルヲ肝要トス

第十三條 現ニ行フ所ノ犯罪又ハ

目今行ヒ終リタル犯罪ヲ名ケ

テ現行犯罪ト云フ

第十四條 又其場ニ在ル衆人ニ犯罪

ヲ揚言マサル時又ハ其證ト成

ル器具書類物品等ヲ携タル

モノハ又現行犯罪ニ同キモノトス

第十五條 第十三條第十四條ニ

記シタル景状ナキ時ハ之ヲ現行
ニ非サル犯罪トス

第十六条 現行犯罪ノ報告ヲ得
死傷ノ者アル場合ニ於テハ直
ニ犯罪ノ場所ニ赴キ醫師及
者ヲ立會ハシメ其原因ト景状
トヲ調書ニ詳記シ其立會人
ヲ之ニ署長印セシム又時宜ニ
ヨリテハ其家屋ヲ閉ジ他人ノ出
入ヲ禁スルヲ得ヘシ但醫師
ヲ立會ハシメ其時ハ其醫師

ヲシテ其死傷ノ原因ト景状ト
書案ヲ記サシムヘシ

第十七条 凡ソ犯罪ノ調書ヲ記
スル時ハ區内ノ戸長又ハ其近鄰
ノ者ヲ立會シメ其立會人ノ署
長印セシムヘシ

第十八条 凡ソ犯罪ニ管シタル
書類及物品等ヲ見出サシム為
メ犯人又ハ他人ノ家屋庭園等
ニ入り之ヲ取揚ル時ハ犯人ニ示
シテ其陳述スル所ヲ聞キ之
ヲ調書ニ記シ其犯人ニ氏名ヲ

手署セシムヘシ且其取揚ケル物
品書類ニ之ニ封印ヲ為スコシ

第十九条 第十八条ノ場合ニ於テ
犯人又ハ他人ノ家屋庭園等ニ立
入ル時必ス其親族又ハ近隣ノ者
ヲ立會ハシムヘシ

第二十条 凡ソ立會人又ハ犯人等
ノ手署セシム可キ場合ニ於テ午
署スルヲ能ハサルモノハ其由ヲ記載
スヘシ

第二十一条 現行犯罪人逃走シテ
人家ニ入ル時ハ直ニ之ニ追跡シ其職

名ヲ述ヘ其家ニ立入ルヲ得ヘシ

但シ外国人住宅ハ檢事ニ申立テ

其指揮ヲ受クヘシ

第二十二条 同管中犯人ヲ追跡シ
他ノ區内ニ於テ之ヲ捕得シタル
時ハ其犯罪發覺ノ地ノ區裁
判所ノ司法警察官吏ニ送付
スヘシ但シ他管ニ於テ之ヲ捕得シ
タル時ハ時宜ニヨリ其ノ捕得シタル
地ノ裁判所ノ司法警察官吏
ニ付スルヲアルヘシ

第二十三条 現行ニ非ス及ヒ犯罪ノ

証據ヲ得ルニ非サルハ容易ニ人ヲ逮
捕又ハ拘留シテ人民ノ權利ヲ侵
利害スヘカラス

第二十四條 鞠獄ニ付呼出シテ受ケ
疾ニ因リ五日ヲ過テ出サル者ハ檢事
司法發言察官吏ヲシテ醫官員ハテ
引キ其家ニ至リ証見セシム但シ
重要事件ハ五日ヲ待タズ其遠
隔地方ノ者ハ其管轄ノ司法警察
官吏ニ証見セシム

第二十五條 司法警察官吏ハ犯事
ノ告發報知ヲ得トモ其事刑法

又ハ違式註違罪ニ觸ルニ至ラサル
者ハ更ニ此ヲ犯治セス

第二十六條 凡ソ逮捕拘留ハ已ム
ヲ得サルニ出リ口書證印ノ日ニ至
迄ハ其罪ノ有無未タ知ル可ラス視
テ罪因トナスコトヲ得ス

第二十七條 凡ソ犯人拒捕妄動スル
ニ非サルハ容易ニ拿縛スルコトヲ得
ス其從手引牽ナス可カラサル者ハ
腰繩ヲ繫ルコトヲ得ヘシ但シ重犯
嚴戒ス可キ場合ニ於テハ格別ナリ
トス

第四章 司法警察職務

第二八条

警保頭助 警視長及大警視
地方知事令參事

檢事ノ指示依リ司法警察事務
務ヲ兼行フ但事急迫ニ出ル者ハ
檢事ノ指示ヲ待タス直ニ司法
警察官吏ヲシテ其事ヲ行ハ
シ後檢事ニ報告スル事ヲ得ヘシ

第二十九条

少警視部及其附属官吏
地方行政警察官吏

右ニ記スル官吏ハ司法警察事務
ヲ兼行フ者トス之ヲ司法警察

官吏ト云

第三十条 檢事ノ指令ニ依リ罪
犯ヲ探索逮捕ス

第三十一条 現行犯罪ハ檢事ノ指
令ヲ待タス直ニ之ヲ逮捕スル
ヲ得ヘシ

第三十二条 現行犯罪ニ非スモ之ヲ
告訴ニ聞ク時ハ先リ檢事ニ報
知シ必ス其指令ヲ待テ然ル後
ニ探索又ハ逮捕ス

但急迫事件ハ先ツ探索又ハ逮捕
ニテ後テ檢事ニ報知スルヲ得
ヘシ

第三十三條 凡ツ犯人ヲ逮捕セシ時ハ
其日時場所証據情狀ヲ具狀
シ檢事ニ送付ス

第三十四條 總テ逮捕シタル犯人ノ
輕重ヲ分別シテ其懲役以テ係
ル者ハ檢事ニ附シ其違式違違
罪ニ係ル者ハ自ラ原告人ト爲テ
其區ノ裁判官ニ付スルヲ得ヘシ
第三十五條 前數條ニ記スル所ノ

外ハ司法警察ノ条ヲ照スヘシ

○ 警察係處務順序

一 行政司法警察ニ關スル官省ニ
領同屆察司府縣其他往復
管下布達ノ條件ハ草案ヲ以テ
長官ニ決テ得テ記録係工付ス
一 行政警察ノ事務ハ茲ニ視聽章
程ヲ照シ司法警察ニ係ルハ檢事
章程司法警察規則ヲ照シ長
官ノ指令ヲ受テ其順序ヲナスヘシ

同通
局ニ關段殺傷届出ハ長官ニ申シ檢
事ヲ指揮ヲ受テ出張檢視シ又
經テ本廳ヘ達シ犯罪ノ公ニ本署ヲ檢事ヘ致シ副署

ヲ以テ本廳へ達シ可然カ

自總行敝死等ハ檢事ニ報告セス其

所管ノ附屬ニ見届申付久シ

但之通
本申
新出
張檢
事
其相
議
然
探索ノ事件若所附屬ヨリ申報
セハ長官ニ開申シ檢事ノ指揮ヲ
受ケ探索逮捕スヘシ但至急ノ事
件ハ先ニ長官ニ申シ後ニ檢事ニ
報スル等便亘斟酌スヘシ

一捕縛シタル犯人若所ヨリ送致セハ
其罪状書ヲ檢シ事實ヲ紀シ其
書ハ犯人ト共ニ直ニ通付録ヲ以テ
檢事乃ニ致シ重キハ副書ヲ以
長官ニ申シ然ル後帖簿ニ編綴

スヘシ輕キハ申スルニ及ハス直ニ檢
事ニ致シ副書ヲ編綴シ月末ヲ以
テ檢閱ニ供スヘシ其ノ輕重ノ區別
并順序ノ如キハ司法警察規則
第三十四條ニ照スヘシ

一附屬ノ進退黜陟ハ其能否勤惰
ヲ具狀シ長官ノ決ヲ乞ヒ処分スヘシ
一右他行願并改印ノ類ノ事ノ輕
キハ同届置キ一ヶ月分取纏メ長
官ノ檢ヲ乞フヘシ

一棄現ニ戸籍ヨリ送付セハ事實
ヲ紀シ長官ニ申シ其ニ附屬竟

届申付始末書ヲ以テ戸籍係ニ廻送スヘシ

一 盜難届出ルアレハ速ニ探索逮捕ニ注意スヘシ届書ハ檢印編算シテ月今ヲ經テ置キ捕縛人負ト共ニ賊粮表ニ記載シ長官ノ檢ラセテ翌月十五日限大藏省ニ申達スヘシ

一 盜賊置品届出レハ速ニ探索逮捕ニ注意シ檢事ニ報知スヘシ

但通 遺失物拾取ル段届出レハ三十日間
本文 建札申付継添請書取置キ期限
物量 所分届出レハ物品付収没ハ律ニ照シ
至リ 書類

共ニ本
廳ヘ

本人 長官ノ決ラセテ處分スヘシ没官
差出

可然ノ 今ハ届書通付録ヲ以テ檢事

弓エ甘スヘシ但縣廳ヨリ三里以外ノ

村ニ限リ郵便ヲ以テ届書ヲ出サ

シノ物品預リ証及建札ヲ取扱フ

旨ヲ申報セシム落シ主アラハ拾ヒ人

一同出縣スヘシ満限ニ至リ落シ主

出サレハ郵便式ハ脚夫ヲ以テ申

報シ處分ラセフトス

一 縣廳近傍失火ノ郎ハ二名申

合セ出張消防ノ指揮ヲナスヘシ

一 消防ノ器械新調補理ハ議案ヲ

一諸官眞ノ勤惰ヲ監視シ之ヲ長
官工具陳スヘシ

スルヲス

內務卿

警視地方知事令參

行政

△地下犯罪

司法

司法卿

檢事搜索方

事ノ檢事ヲ經由スヘキ者

一
犯
罪
調
書

一犯人口供

一賍物書

一刑事より入檻シ及ヒ放免又轉

送等ニテ出檻スルモノ

但入監中日、獄廷、與出不判

事ヨリ監倉掛リニ直涉ニ檢事ヲ

經由ス

一事犯、逮捕ニ至ラス、勾喚スモ、

但他ノ犯罪ノ状事ヲ証セニカ爲

又一時勾喚スルモノ等判事

之ヲ處令シ檢事ヲ經由スルニ
及ハス

一犯人ヲ他ニ送付スルニ付テノ文書
及鞠狀

一民事上ヨリ一時勾當^當シ及解放
スルモノ

但勾當中日ニ詔度ニ喚出スル判

事ヨリ監倉掛リニ直涉シ檢事

ヲ經由セス

一聽詔ニ付喚出ラ受テ疾ニ因テ

過テ出サルモノハ司法警察規則

第二十四條ノ手續ト同一タルヘシ

事務順序ノ三ヲ挙ク

凡ソ警察官吏ヨリ犯人ヲ送致

スルニハ受付掛リ附屬吏<sup>附屬吏ト等
外吏從前ノ</sup>

選部^{選部}ヲシテ之ヲ受取ラシメ監倉掛

リニ移シテ入檻セシム其罪調書

ハ先ツ受付ニテ其姓名年歲罪名

及年月日ヲ簿冊ニ登記シ<sup>簿冊
豫メ</sup>

定式^{定式}ヲ之ニ番号ヲ付シテ之ヲ局長

檢事ニ付ス局長檢事審閱シ

テ其掛リヲ定メ掛リ負其証據

情狀等ヲ詳細尋問シテ之ニ意

見ヲ記付シテ一再ニ之ヲ局長ニ附

ス乃長意見ナケレハ之ニ檢印シ
若其証據情状等明瞭ナラス判事ニ付テ
能ハサルモ其掛リ負ラシテ警察官吏ニ
議セ其掛リ負ラシテ經受付掛リヨリ
判事ニ付テ鞠獄ニ畢テ判事
其口供ヲ乃長檢事ニ付ス乃長檢
事ニ付テ審閱シテ意見ナキニ
テハ掛リ負スル意見アルトキハ先
判事ニ對シ之ニ檢印シ受付掛リニ
意見ヲ陳ス
付ス受付掛リ其檢印ノ月日ヲ簿
冊ニ追記シ再ヒ判事ニ付ス判事
斷刑ニ就リ裁判宣告スルニ當
リテ乃長檢事ニ連班ス裁判

宣告ニ畢テ受付掛リ其刑名
ト月日ヲ簿冊ニ追記シ一月コト
ニ其已決未決ヲ區書シ其總計
ヲ舉ク又別ニ一紙表ヲ作り一月間
取扱フ所ノ件數其已決未決ノ總
計ヲ舉クト本局ニ報ス
凡ソ他ノ罪惡ヲ鳴テ獄廷ニ推問ヲ
請求スルモノアルハ吟味ノ願ノ類
其訴状ヲ受付掛リテ訴訟
口詰ヨリ受取リ其姓名訴銘及年
月日ヲ簿冊ニ登記シ之ニ番号
ヲ付乃長檢事ニ付ス乃長意

見ナケレハ之ニ檢印シテ判事ニ
 付ス以下前条犯罪若シ其新証ノ
 審ラカナラサルモノハ告新人由ニ
 フ釈スルト由モ若シ其証跡明白
 ナラサルモノハ其掛負ラノ警察
 官吏ニ背シ其事由ヲ述ヘ探索
 ノ方便ヲ尽サシム

旅費定則中本年三月一日より改
 正御布達ニ隨ヒ縣内後前之定
 規ヲ參照改定スル左ノ如シ

○旅費定則中本年三月一日より改
 正御布達ニ隨ヒ縣内後前之定
 規ヲ參照改定スル左ノ如シ

- 一管内派出巡回旅行
 - 四五等 従前一日金三四六錢七厘
内二割引
 - 三等 一日金三四圓錢厘
 - 六七等 同金三四三錢三厘
 - 四等 同金三四三錢三厘
 - 八九等 同金一四六錢
 - 五等 同金一四六錢
 - 十等 同金一四六錢
 - 六等 同金一四六錢

十二三等

同金、一四十六錢

七等

同金九十九錢

十四等

同金九十八錢

八等

同金九十八錢

等外

同金九十八錢

一二等

同金九十八錢

九等

同金九十八錢

同

三四六

同金九十八錢

十等

同金九十八錢

右に五里以外之地に至るは旅中
滞留し不論支給スヘシ

一管外派出轉任移任管外出履

交代免職歸郷檢見巡回大蔵省

定則之通賜ルベシ

一管内出張所詰其他懲役場所詰

官負御用ニテ本廳へ出頭之節

滞留日當共大蔵省規則之通

賜ルベシ

但旅費之義往還五里以内之

場所ハ賜ラス往還五里以外ノ

分ハ此定規ヲ以テ支給スベシ

一在廳及若出張所在勤之者巡回

出履共往還五里以内ハ旅費當

共不賜出張ノ名義ヲ以テ往還五

里以外之地へ派出之節ハ日當之
半數ヲ賜リ往返六里以上十里迄
之地ニ至ラハ今日當全數ヲ賜ル
一泊以上御用ニテ滯留スレハ此定
規日當三十分ヲ賜ルヘシ

但往返五里未満ト虽モ一泊致サ
ハ廳限日當三十分ヲ賜ルヘシ
一給仕小使水夫諸職人額旅費
日當左ニ

一日 金四拾貳 旅中

金廿五 滯留

但管外御用之節ハ大藏省定
規之通賜ルヘシ

一本廳出張一所に出着簿ヲ設ケ置
派出歸着之干支月日ヲ記載
シ其度々檢印ヲ請ケ出務日數
證トスベシ

但旅中御用外病氣又ハ事
故有テ滯留セシ時病氣ハ医
師之容體書并村吏證書
取之可差出詮議之上増日數
滯留之日當ヲ給ルヘシ

一派出前旅費取替之儀ハ難計
候得共不得テ事情アラハ
凡日數ヲ積リ其等級ニ応シ全

額ヲ積リ長次官ノ許可ヲ得前
借スルト可心得尤歸着後者之
内返納可致事

一御用物等ニ總テ資目ニ應シ
人夫ラ定メ里程ニ應シ賃錢可仕拂
答ニ付賃錢簿ニ里程凡記載為
致候證書ヲ以テ勘定仕テ可致事
一出張巡回先諸色御用品敷ホハ
難計候得共自然無余儀敷候
節事故書取證書相添差出
サハ詮議之上御用ニ可相立事
右之通改定之候事

七年三月一日 朽木縣

○ 旅費定則

第三章

一並旅行云々

但端里數十詰ハ六里未満
日当ノ半數六里以下全數七里
詰ハ四里未満半數四里以上全
數五里詰ハ四里詰ハ三里未満
日当ノ半數三里以上全數三里
詰ハ二里未満半數二里以上全
數ヲ賜ルヘシ 外標名ハハ

古里村ニ裁利ノ云々信州ニ至

○ 一 警視廳職制

第一章 長 東京警保ノ
事務ヲ總提シ大警視以下ノ
諸負ヲ管督シ各其職ヲ尽ミ
サシム判任以下ノ進退ハ大少警
視ノ具狀ニ依テ之ヲ點檢ス
因事警警察ノ事ニ付テハ直
チニ正院ノ指令ヲ受ケルコトアル
ヘシ諸省卿ノ命ヲ奉シ又ハ
使府長官ノ附托ヲ受ケ
其權内ノ警警察ヲ行フ警
保事務ニ付テハ区戸長又ハ

其副役ノ者ヲ指揮シ或ハ人
民ニ命令スルコトアルヘシ

大警視 權大警視 少警視

及ヒ警部巡查總攝シ長
質助シ廳務ヲ裁判シ長
副席ノ時ハ其事ヲ代理ス

少警視 權少警視 事ヲ

大警視ニ承ケ各務ヲ掌

シテ擔當ノ責ニ任ス若大区
出張ノ長トナリ区中警保
ノ事ヲ督ス

大警部 權大警部 中警

部 權中警部 少警部
權少警部 大少警視ノ
指揮ニ屬シ事務ヲ分掌ス
各大区出張所ニ分派シ其事
務ヲ攝行ス大警部ハ少警視
アラサルハ其事務ヲ代理ス
ヲ得各少区ニ分派シ區中警
保事ヲ督ス

一等巡查 二等巡查 三等巡查
四等巡查 各部ニ分派シ警部
ノ指揮ヲ受ケ部中ヲ巡邏查
察ス一等巡查ハ二等以下ノ

巡查ヲ管攝ス一等巡查アラ
サルハ二等巡查之ニ代ル

第二章 警視廳章程

第一条 警保趣意ハ人民凶
害ヲ豫防シ世ノ安寧ヲ保全
スニアリ之ヲ行政警察官
トナス

第二条 其職務ヲ大別シテ
權利健康風俗國事ニ件
トス 第一人民ノ權利ヲ保護
シ治安ニ安セシムル事 第二
健康ヲ看護シテ生命ヲ

保全セシムル事第三夜蕩
蕩逸ヲ制シテ風俗ヲ正スル
事第四国事犯ヲ隱密中
ニ探知スル事第三條

第三條 警署視察ノ權ハ東京
府管轄地ト同一ノ區域ニ及
ブヘシ

第四條 行政警察豫防
ノ力及ハスレテ法律ニ背ク
者アルハ其犯人ヲ探知スルヲ
司法警察ノ職務トス之ヲ
行政警察ノ官ニ於テ行フ

行政警察章程並司法警察
規則ヲ照スヘシ

○ 警察係處務順序第八條
改正

査見届アレハ直ニ検査ヲ遂ケ始
末書ヲ以テ長官ヘ申し戸籍係ヘ
回送スヘシ

戸籍掛同断等十六條ヲ削リ
第十七條中改正
査見届以下ノ十一字ヲ削リ及
検査始末書等司法警察係ヨリ
回送スルハ十七字ヲ加フ

右之通改正候条此旨相達候
事

杓木縣令鍋島幹代理

明治七年 四月十八日 杓木縣七等出仕柳田高

○ 司法警察ノ事務御委任付
取扱方相窺候書付

司法警察事務當今當縣工
御委任之旨本月四日御達付
而本年正院第十四号御達
有之候檢事職制章程司
法警察規則中左ノ條款
相除キ其他者悉皆取扱候

儀ト相心得可然哉

第二章 檢事章程中

第五條中鞠獄已ニ畢テ檢
事其口書以下云々

第六條處刑ノ言渡シ云々

第七條ノ中裁判ヲ為ス權
十以下云々

第八條若シ裁判官犯罪
云々

第九條裁判一町ノ監倉云々

右不取扱相伺申候以上

明治七年杓木縣令鍋島幹

同之通

明治七年十月十三日

印

諸君

罪犯捕縛ハ一義ニ背リ不誠
 川路方君等祝詞ニ通指合度
 華ナキ事以事ニ云ハ乃チ以テ之
 事ニモ亦違至目録官事更無
 一ノ片ハ法事恒候ヲ通シテ
 斯今ニテ候ニ以テ之事此臣
 爲メ乃チ違至ニ事一

順治年士存習法今亦意任

菊
竹
人
心
同

国事紀ヲ隱密ナル様案
 以テシテ之ヲ當座ニ奉
 至之ニ要務ナルヲ是
 事ニ付テ之ヲ西院ニ
 交ル候ニ係機密ナル
 事ニ付テ之ヲ及旦ニ
 知悉ス候ニ付或ハ機
 密ナル候ニ付之ヲ自
 當座ニ傳テ之ヲ他
 座ニ傳テ之ヲ他座
 ニ傳テ之ヲ他座ニ

其古世月友子子子子子
長中下通張乃乃乃乃乃
格功成此從亦何也

唯此七斗土，乃古聖秘傳，

月佳 今才高 敬

追古及今之世
如之者為海
內之同聲
在眾人之
中
求其
一
步
足
中
安

伺之通

唯此斗土存

才路三千

明治廿年六月十二日
三平以下等、明治廿年六月十二日、
官紙に貼用せしむる或は異状に用ひ
サル証書等、其等ノ力又其所出シテ
帳簿ニ却テ入ラセリ者ハ破損
裁断シテ其事故ノ明ニ因リ
捺シタル捺シテサルノ別ニシ
アリトスル七年六月十二日、
其等以下等、明治廿年六月十二日、
其等以下等、明治廿年六月十二日、
七年六月十二日、其等以下等、

以規則之率に決まるべきことを
法律に於て旧規則に於て
之を改め自ら之を貼用押
すことの所を付し標上裁判に
及べしと定むる事

明治廿九年七月十二日法律第三十五号

甲午年

府外

明治廿九年七月十二日法律第三十五号
之を改め自ら之を貼用押す
之を改め自ら之を貼用押す
之を改め自ら之を貼用押す
之を改め自ら之を貼用押す

人民便に於て耕地其他地
を統一する事とす
之を改め自ら之を貼用押す
之を改め自ら之を貼用押す
之を改め自ら之を貼用押す

明治廿九年七月十二日法律第三十五号

府外

人民便に於て耕地其他地
を統一する事とす
之を改め自ら之を貼用押す
之を改め自ら之を貼用押す
之を改め自ら之を貼用押す
之を改め自ら之を貼用押す

其為一國之代表者人皆知之
其為人之後者亦不為人所知
其為一國之代表者人皆知之
其為人之後者亦不為人所知

其為一國之代表者人皆知之
其為人之後者亦不為人所知

其為一國之代表者人皆知之

其為一國之代表者人皆知之
其為人之後者亦不為人所知

其為一國之代表者人皆知之
其為人之後者亦不為人所知

其為一國之代表者人皆知之
其為人之後者亦不為人所知

其為一國之代表者人皆知之

其為一國之代表者人皆知之

其為一國之代表者人皆知之

其為一國之代表者人皆知之

其為一國之代表者人皆知之

其為一國之代表者人皆知之

其為一國之代表者人皆知之

其為一國之代表者人皆知之

何時に
何時に

何時に
何時に

何時に
何時に

何時に
何時に

何時に
何時に

何時に
何時に

何時に
何時に

何時に
何時に

何時に
何時に

何時に
何時に

何時に
何時に

何時に
何時に

何時に
何時に

何時に
何時に

何時に
何時に

何時に
何時に

何時に
何時に

何時に
何時に

何時に
何時に

何時に
何時に

何時に
何時に

何時に
何時に

何時に
何時に

何時に
何時に

何時に
何時に

何時に
何時に

徵法是志及指合無句也
之今般左之通名也
此名下亦無句也

[illegible]

以下 12 葉余白

